

第1学年算数科学習指導案

日時 令和3年10月8日(金) 5校時
児童 男8名 女6名 計14名
指導者 竹林 直美

1 単元名 たしざん(東京書籍 1年②)

2 単元の目標

1位数同士の繰り上がりのある加法計算の仕方を理解し、計算の仕方を操作や図を用いて考えることができる。また、計算の仕方を操作や図を用いて考えた過程を振り返り、そのよさを感じ、今後の学習や日常生活に活用しようとしている。

3 単元について

本単元では、「10といくつ」という数の見方に着目し、1位数同士の繰り上がりのある加法計算の仕方を考え、理解し、計算する力を育成する。また、数の見方を工夫して既習の計算に帰着して解決する力を伸ばしていく。そのため、ブロック操作や図などを用いて計算の仕方を説明する活動を取り入れていきたい。ブロック操作をしたり、図などに表したりして説明することで友達の考えを共有したり、ブロック操作と図などを関連付けて考え、説明させたりして理解を深めていきたい。

4 児童の実態と対話的な活動の工夫

これまで、数の分解、10といくつの学習をしてきた。本単元では、既習事項に帰着して考えるため、その定着の度合いが理解に影響してくると考えられる。また、論理的な思考が必要となるので、この時期の児童にとっては難しいものだと考えられるので、それぞれのつまずきに配慮しながら学習を進めていきたい。

児童は、友達と仲良く過ごしている。休み時間などのおしゃべりは活発であるが、学習時間などの改まった場での発言は、不慣れである。発問の意図を理解できなかつたり、自分の考えが持てなかつたり、恥ずかしくて話せなかつたりする児童もいる。その実態から、対話的な活動に慣れること、対話の内容を絞ることをしていきたい。どのような発言も受容的態度で受け止めていきたい。本単元では、つたない言葉でも、ブロックや図を用いながら伝えようとしたり聴こうとしたりする態度を培っていきたい。

5 単元について

(1) 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・1位数同士の繰り上がりのある加法計算が、「10といくつ」という数の見方を基にしてできることを理解し、その計算が確実にできる。	・10のまとまりに着目し、1位数同士の加法計算の仕方を、操作や図を用いて考えたり、日常生活に生かしたりしている。	・数や式に親しみ、算数で学んだことのよさや楽しさを感じながら学ぼうとしている。

(2) 単元の指導計画 (指導時数 10 時間)

次	時	学習内容
1	1	・「10 といくつ」という数の見方に着目し、 $9 + 4$ の計算のしかたを考える。
	2	・被加数が 9 の場合の計算をする。
	3	・「10 といくつ」という数の見方に着目し、被加数が 8 や 7 の場合の計算の仕方を考
	4	える。 ・被加数が 9 ～ 6 の場合の加法の計算の練習をする。
2	5	・「10 といくつ」という数の見方に着目し、 $3 + 9$ の計算のしかたを考える。(本時)
	6	・被加数が 2 から 9 までの加法の計算練習をする。文章題を解く。
3	7	・計算カードを使った 1 位数同士の繰り上がりのある加法計算の練習をする。
	8	(デジタルコンテンツ)
	9	
	10	・たしかめよう・チャレンジ問題に取り組む。

6 本時の指導 (5 / 10)

(1) 目標

1 位数同士の繰り上がりのある加法計算で、被加数、加数の大小に関係なく、10 のまとまりをつくることに着目して計算の方法を考え、ブロック操作や図などを使って説明することができる。

(2) 展開

段階	学習内容と学習活動	教師の指導・支援 ◎本時の評価規準 (評価方法)
つかむ	<p>1 問題把握</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">たまごは、あわせてなんこでしょう。</div> <p>○立式する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・たしざん ・もう分かる。12こ <p>○今までの式との違いを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・うしろの数が大きい。 ・前が小さい。 <p>2 課題把握</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">$3 + 9$ のけいさんのしかたをかんがえよう。(うしろが大きいかず)</div>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の言葉から課題をたてたい。 ・課題は、短く書かせる。
見通	<p>3 見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10 のまとまりを作ればよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・図 ・ブロック

す	・まえにしようか、うしろにしようか。	・たまご
解 く	4 自力解決 対話的な活動 1 (ペア) ・ブロック操作をしながら話す。または、図を使って説明する。 ・分からないところを補い合う。	・時間があったら、別の方法に挑戦させる。
学 び 合 う	5 学び合い 対話的な活動 2 (全体) ・2つの方法を出し合い、似ているところや違うところを話し合う。 ・どちらも10のまとまりを作っている。 ・分ける場所や10のまとまりを作る場所が違う。 ・1つ目は、慣れていていい。2つ目は、速くできる。移動が少ない。	◎被加数、加数の大小に関係なく、10のまとまりを作ることに着目して計算の仕方を考え、操作や図などによって説明している。(観察・ノート) [思・判・表]
ま と め る	6 類題 2 + 9 7 本時のまとめ 10のまとまりといくつをつくれればよい。	
振 り 返 る	8 振り返り ○本時の学習を振り返り、ノートにまとめる。	・前でも後ろでも、10のまとまりをつくれればよいことや、前でも後ろでも分けてよいことに触れるように促す。

(3) 評価

被加数、加数の大小に関係なく、10のまとまりを作ることに着目して計算の仕方を考え、ブロック操作や図などを使って説明している。

7 板書計画

10/8 もんだい

か

3 + 9 のけいさん

ま

10 のまとまりといくつをつくとよい。



しき $3+9$
こたえ 12こ

3はあと7で10だから...

9のほうは10にちかいから...

あたらしい

まえに10のまとまり
うしろをわける
なれている。わかりやすい

できる

うしろに10のまとまり
まえをわける
うごかすのが1こ
はやい